

●特別資料貸出等

郷土・資料調査室が収蔵する貴重な資料は、出版や映像における地域のPR素材として、または学術研究のために、複製物の特別貸出や特別撮影をおこなっています。ご希望の方は、台東区立図書館ホームページで申請の詳細をご確認ください。許可にあたりましては、利用目的や企画内容を総合的に判断させていただきます。

平成28年度の郷土・資料調査室利用実績 (平成29年1月末現在)

- 入室者数：49,414名
- パソコンコーナー利用者数：9,271名 (内電子機器持込席 521名)
- レファレンス件数：カウンター 45件
電話 69件
文書 3件
- 特別貸出：44件 197点 (写真素材：145点、刊行物：29点、浮世絵：13点、絵はがき：7点、地図・その他3件)
- 特別撮影：1件 12点
- 種別：映像・番組制作 19件、教育・学術研究 7件、出版 10件、その他 8件
- 主な資料提供先：練馬区立石神井公園ふるさと文化館、都市出版株式会社、日本放送協会、文京区立本郷図書館など
- 主な提供資料：高相嘉男氏写真コレクション、絵はがき、浮世絵など
- 浅草文庫利用者数：1,392名



▲練馬区立石神井公園ふるさと文化館 特別展図録



▲都市出版株式会社『東京人』2016年4月号

●平成29年度の企画展

郷土・資料調査室では、平成29年度に下記の企画展を予定しています。詳細は広報たいとう、ホームページ、ポスター、チラシ等でご案内します。なお企画展にあわせてトーク・イベントやギャラリー・トーク、スライド・トークも行いますので、ふるってご参加ください。

- 企画展「台東区発足70周年記念 台東区博物館ことはじめ」
6月16日(金)～9月20日(水)
トーク・イベント 7月上旬開催(予定)
ギャラリー・トーク、スライド・トーク開催(予定)
- 企画展「台東区発足70周年記念 定点撮影写真で振り返る台東区の70年(仮)」
9月22日(金)～12月20日(水)
スライド・トーク開催(予定)
- 企画展「日記が語る台東区4『樋口一葉日記』(仮)」
12月22日(金)～平成30年3月14日(水)
トーク・イベント 平成30年2月開催(予定)
ギャラリー・トーク、スライド・トーク(予定)
- 企画展「郷土・資料調査室ってどんなところII(仮)」
平成30年3月16日(金)～6月中旬
ギャラリー・トーク開催(予定)

ただいま準備中

企画展

台東区発足70周年記念 定点撮影写真で振り返る台東区の70年(仮)

9月22日(金)～12月20日(水)

台東区では、発足70周年を記念してさまざまなイベントを予定していますが、郷土・資料調査室でも、写真資料による企画展を行います。

区内の一定地点を毎年同ジャンクルから撮影した写真(定点撮影写真)や、当館所蔵のその他の写真・絵はがきなどで、戦後台東区の歩んできた道を振り返ります。



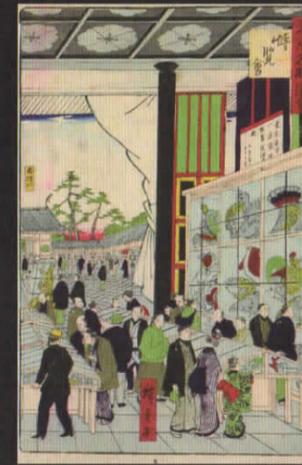
▲昭和49年定点撮影 上野公園入口



▲平成26年定点撮影 上野公園入口

書庫を繙く

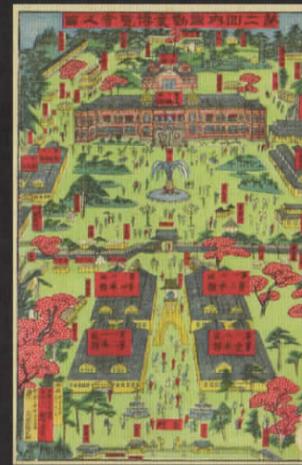
郷土・資料調査室の貴重資料を紹介するコーナー



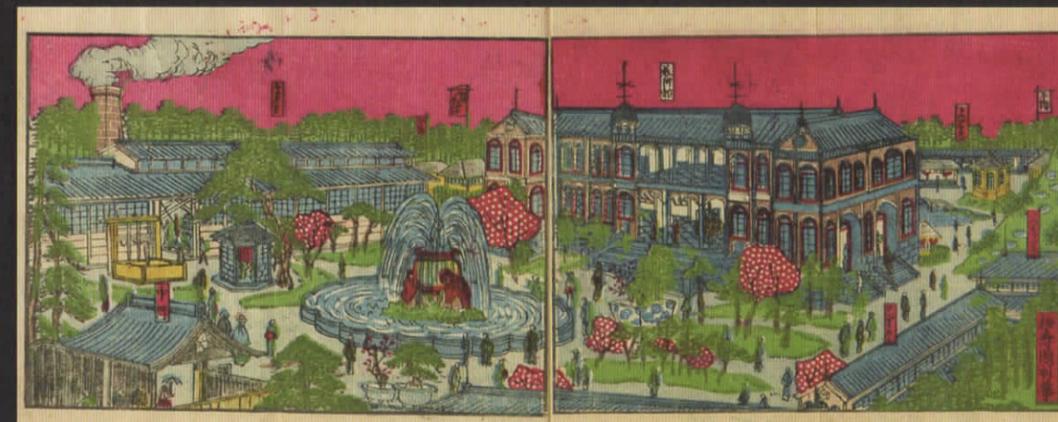
▲図1



▲図2



▲図3



▲図4

今回の「書庫を繙く」は、6月16日(金)から9月14日(水)まで開催する企画展「台東区博物館ことはじめ」から、展示資料の一部を紹介します。

日本で最古の歴史を持つ東京国立博物館と国立科学博物館は、ともに湯島聖堂で文部省による博覧会が開催された明治5年(1872)をもって博物館の開館年としています。図1のとおり、評判を呼んだ名古屋の鯨、動物の剥製や山椒魚など、今の「東博」のイメージとはかけ離れた品々も多く展示されました。政府は、欧米の博物館に近い施設を早く開館したく、全国に収蔵品の寄贈を呼びかけたのですが、江戸時代の「本草会」「物産会」「書画会」とそう変わらない品が急ぎょ集められ一堂に会したというのが、この博覧会の性格でした。

日本の博物館黎明期と博覧会は密接な関係にあります。開館準備は、文部省、のち内務省に委ねられますが、博覧会も同じ道をたどりました。図3の配置図のとおり、明治14年

「第2回内国勸業博覧会」は、美術館・機械館・農業館・園芸館・動物館などあり、自然史博物館、産業博物館、植物園、動物園など後の博物館の形態を包含した総合的な大規模博覧会でした。このとき美術館として使われた建物は、イギリス人、ジョサイア・コンドル設計のもので、図4中央に大きく描かれています。現在の東京国立博物館本館とはほぼ同位置に建てられました。

本企画展は、台東区発足70周年を記念して行います。江戸時代の本草会・物産会を源流とした博覧会の歴史、そして上野公園に続々と誕生した黎明期の博物館の歴史をひもときます。さらに、台東区芸術文化財団が運営する朝倉彫塑館、下町風俗資料館、一葉記念館、書道博物館、旧東京音楽学校奏楽堂も写真をまじえてその歴史を紹介します。7月中旬には、ゲストを迎えた講演会も開催しますので、皆さまのご参加をお待ちしています。

台東区立中央図書館 郷土・資料調査室

〒111-8621
東京都台東区西浅草3-25-16
TEL.03-5246-5911
<http://www.city.taito.lg.jp/index/library/index.html>

【開館時間】
月～土曜日 午前9時～午後8時
日曜・祝日 午前9時～午後5時

- 【アクセス】
- つくばエクスプレス「浅草」駅 A2出口から徒歩5分
 - 地下鉄日比谷線「入谷」駅 徒歩8分
 - 北めぐりん・南めぐりん 「生涯学習センター北」徒歩2分
 - 都バス「入谷二丁目」停留所 徒歩1分



郷土・資料調査室紹介

【吉原関係資料】

吉原は、江戸幕府公認の遊廓として成立し、はじめは日本橋葎町(現、中央区人形町付近)に設置されました。明暦の大火(明暦3年・1657)後は、新吉原(現在の台東区千束)に移転しました。

郷土・資料調査室では、永年のあいだこの新吉原関係の資料を収集してまいりました。貴重資料では、浮世絵・絵はがき・和本などがあり、江戸時代後期に刷られた浮世絵については、近年とくに力を入れて収集に努めています(図1)。平成26年(2014)には、企画展「吉原細見の世界」において多数の吉原ガイドブック『吉原細見』を紹介しました。当館所蔵資料には、春と秋の年2回に刊行された和本の形態のほかにも、花魁や大門などが鮮やかな色で刷られ、しかも絵図形式という珍しい「細見」もあります(図2)。

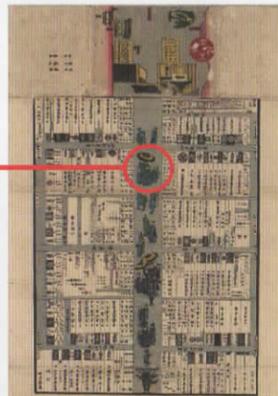
平成28年、当館では吉原に関するお問い合わせも多いため、新たに吉原関係資料のみを集めて棚番号9に配架し直しました(図3・4)。同じ吉原を扱っていても、文学、美術など、それぞれ別の位置にあった図書をまとめて配架することで、一度に、広範囲に

吉原のことを調べることができるようになりました。また、他の図書資料と区別し、吉原関係資料約190冊を、「吉原」のラベルシールに統一しました(図5)。

地域資料としての吉原、文化資源としての吉原、さまざまなニーズにあわせて、吉原関係資料をこの機会にぜひご利用ください。



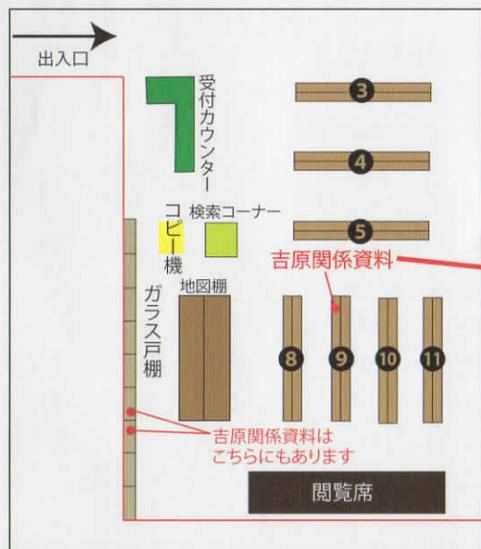
▲図1「江戸名勝図会 吉原」文久2年(1862) 歌川広重(2代)画



▲図2「北里通全」弘化4年(1847)刊



花魁も描かれた珍しい形式の細見



▲図3 郷土・資料調査室 略図



▲図4 吉原関係資料の棚



▲図5 吉原関係資料ラベル

平成28年度の企画展

所蔵資料で見る 谷中五重塔

3月18日(金)～6月12日(日)

◆講演会 江戸時代の天王寺(旧感応寺)五重塔

- 日時: 5月14日(土)
- 講師: 伊藤宏之(大正大学非常勤講師)
- 参加者数: 70名

◆図書館員によるスライド・トーク

- 日時: 4月14日(木)、5月12日(木)
- 参加者数: 21名(2回合計)



日記が語る台東区 その3 蘭学者がつづる江戸～柴田収蔵日記～

6月17日(金)～9月14日(水)

◆トーク・イベント 『柴田収蔵日記』の世界

- 日時: 7月10日(日)
- 講師: ①「柴田収蔵と台東区」 平野 恵(台東区立中央図書館専門員)
- ②「柴田収蔵と蘭学」 吉田 忠(東北大学名誉教授)
- 参加者数: 47名

◆専門員によるギャラリー・トーク

- 日時: 8月21日(日)
- 参加者数: 6名

◆専門員によるスライド・トーク

- 日時: 9月8日(木)
- 参加者数: 8名



郷土・資料調査室ってどんなところ?

9月16日(金)～12月14日(水)

◆専門員によるギャラリー・トーク

- 日時: 10月16日(日)、11月27日(日)
- 参加者数: 13名(2回合計)



所蔵資料から見る さまざまな門

12月16日(金)～平成29年3月15日(水)

◆トーク・イベント 台東区の門

- 日時: 2月12日(日)
- 講師: ①「雷門の歴史 一絵はがきにみる台東区の門」 平野 恵
- ②「映像アーカイブにみる門 一常設門と仮設門」 中村洋子(台東区文化財保護調査員)
- ③「江戸東京の門 一浅草橋御門を歩いて上野凱旋門に抜ける」 木下直之(東京大学教授)

◆専門員によるスライド・トーク

- 日時: 1月12日(木)
- 参加者数: 15名

◆専門員によるギャラリー・トーク

- 日時: 3月5日(日)

